

長期増分費用モデル研究会（第76回）議事要旨

- 1 日 時 令和4年8月23日（火）11：00－11：30
- 2 場 所 WEB会議による開催
- 3 出席者 （構成員）齊藤座長、酒井座長代理、相田構成員、佐藤構成員、関口構成員、高橋構成員、辻構成員
（総務省）片桐料金サービス課長、寺本料金サービス課企画官、永井料金サービス課課長補佐、竹渕料金サービス課課長補佐
- 4 議 題
（1）長期増分費用モデル研究会最終報告書（案）について

議題（1）長期増分費用モデル研究会最終報告書（案）について

- 事務局から、資料1及び資料2について説明があり、その後質疑応答がなされた。また、審議の結果、資料1を長期増分費用モデル研究会の最終報告書（案）とし、同最終報告書（案）に対する意見募集を実施することについて了承された。主な意見等は次のとおり。

酒井座長代理：LRICモデルそのものは本来、最も効率の良いネットワークを作り、それを用いて料金に反映させるというものだったと思うが、大体今までのLRICモデルの検討の歴史の中では、光IP補正や局舎の位置をなるべく現実の網に合わせて、あまりすごいことをしないという形でやっていたと思うし、例えば、今回の公衆電話や緊急通報に光IP電話を使うということもそれに見合った体制であり、全部を光IP電話にするわけではないので、今までの歴史に合った方法だと思う。

ただ、本来ならロジックそのものについては、できるだけグローバル最適にしようという話だったと思うが、それが今回はうまくいかなかったということで、恐らく、ローカル最適になってしまっているのだろうと思う。そう簡単ではないかもしれないが、今後、ローカル最適をグローバル最適にできるだけ近づけるように努力されるということで、この補正法も確かにそのとおりであるかと思う。

齊藤座長：今回、ユニバーサルサービスコスト算定方法についての議論の対象となっているのは第9次LRICモデルであるが、第10次LRICモデルということもあり得るのか。

事務局：あり得るが、先ほど酒井先生からも御指摘いただいたとおり、中長期的な課題としては、「コスト判定FRT」の最適化の問題があるため、まずはそのような問題について、引き続き関係者の皆様方と意見交換しながら取り組んでいきたい。その上で、適宜第9次IP-LRICモデルの見直しを図っていきたいと思っている。

齊藤座長：現在の技術変化というのは今後とも、今は計画していなくても、将来はあり得ることだという理解で良いか。

事務局：おっしゃるとおり。電気通信技術を利用して、できる限り高度で新しいものということを常に追求していくべきものであるため、その時々に合わせて課題を解決できるようなモデルの見直しは、継続的に行っていくべきものであると認識している。

齊藤座長：このほか、御発言はないようであるため、この報告書（案）には特段の修正は必要ないということで進めさせていただく。本日の議論を踏まえて、資料１を長期増分費用モデル研究会の最終報告書の案として、広く国民の皆様からご意見を募集することにしたいと思う。それでよろしいか。

（異議なし）

ただ今の報告書（案）で意見募集するということで、意見募集の期間や手続などについては事務局に一任させていただきたいと思うが、よろしいか。

（異議なし）

以上